

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)  
第13回 東北大学男女共同参画シンポジウム

# 男性性を問う

平成29年 1月29日(日)  
13:00—17:00

開催場所

東北大学星陵キャンパス  
医学部開設  
百周年記念ホール  
(星陵オーデトリウム)

主催

東北大学男女共同参画委員会



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 東北大学における 男女共同参画推進のための行動指針

東北大学は、1913年に日本で初めて女子学生3名の入学を許可した。その3名はやがて女性初の学士になるなど、本学は女性研究者育成の歴史に大きな足跡を残している。そのような歴史の中、戦前にあっては学問を志す全国の女性が「学都仙台」に集い、本学は帝国大学の中で最も多くの女子学生を輩出した。

そして、2001年に全国に先駆けて東北大学男女共同参画委員会を発足させ、「男女共同参画のための東北大学宣言」(2002年)のもと、全学的な男女共同参画の推進に向けた活動として、学内の環境整備や意識改革、学内外広報等に努めてきた。また、2003年度に21世紀COE「男女共同参画社会の法と政策」が、2008年度にはその成果を発展させたグローバルCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」が採択された。これらは、男女共同参画とダイバーシティ研究・教育のためのプログラムであり、研究・教育における男女共同参画の取り組みも全国に先駆けて進めている。

自然科学系分野では、2006年度から「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」を展開し、環境整備や次世代育成等に取り組むとともに、2009年度からは「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013」により、理工農学分野の女性研究者の採用を促進し、そのリーダー育成を推進している。

このように、男女共同参画の包括的推進(理論整備・活動支援)において、我が国をリードする活動を展開している本学は、女子学生入学100年の歴史と背景をもとに、建学以来の理念の一つである「門戸開放」を継承する男女共同参画について、今後10年間の行動指針として以下の7項目を策定する。

## ■両立支援・環境整備

本学構成員が、年齢性別等を問わず、仕事や学業と生活との両立を図ることができるように、意識の醸成に努め、子育て支援のための学内施設の充実や介護支援を含めた制度等の環境整備と周知を進める。

## ■女性リーダー育成

アカデミアにおける男女共同参画の推進に向けて、女性研究者を積極的に採用・養成し、さらに学内および学会・社会のリーダーとして飛躍させるための支援・登用制度を整備する。

## ■次世代育成

将来性豊かな次世代女性研究者を輩出するために、サイエンス・エンジェル(SA)活動を継続・発展することなどにより、学部生・大学院生を対象とした研究者使命の意識啓発と醸成に努め、さらに実体験を通して育成する施策を推進する。

## ■顕彰制度

アカデミアにおける男女共同参画の先駆として、各分野で活躍し多大な貢献をなした方々を選考し顕彰するため、新たな「東北大学男女共同参画賞」を創設する。

## ■地域連携

東北地方の中心に位置する大学として、東北地方の多くの大学、行政機関等との連携を進め、地域発展や震災復興事業等における男女共同参画を推進する。

## ■国際化対応

ワールドクラスへの飛躍に向けて、グローバルな研究・教育体制に相応しい、外国人研究者・留学生を対象とした様々な両立支援策を講じ、国際的観点に基づいて学内の男女共同参画を推進する。

## ■支援推進体制

上記の男女共同参画活動を円滑に推進するために、男女共同参画担当理事(若しくは副学長)と総長特別補佐(男女共同参画担当)を置き、さらに「男女共同参画推進センター」などの恒常的支援体制を整備する。

# ごあいさつ

開会にあたり、一言ご挨拶いたします。

はじめに、このたび第13回目の東北大学男女共同参画シンポジウムを開催できますことに、深く御礼を申し上げます。

さて、本シンポジウムの開催にあたり、今回のシンポジウムに期待していることについてお話しさせていただきます。

このシンポジウムを主催する東北大学男女共同参画委員会は、平成11年6月の「男女共同参画社会基本法」施行と、平成12年5月の国立大学協会ワーキング・グループの報告を契機として、平成13年4月に本学に設置されました。

以来、男女共同参画推進のための東北大学宣言の策定、男女共同参画にかかる研究や取組を奨励する沢柳賞の創設などにより、本学における男女共同参画意識の醸成、学内保育施設の設置など仕事と育児・介護の両立支援策の充実を図ってまいりました。

また、このたび平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に採択されました。「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」と名付けたこの事業では、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントとワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や、女性研究者の研究力向上のための取組、および上位職への積極採用に向けた取組を進めていくことにしております。

一方、毎年シンポジウムを開催することにより、本学における男女共同参画推進の取組をその都度振り返り、大学の役割や推進施策などについて議論を重ね、今回は第13回目の開催となります。

毎回主要テーマを設けていますが、これまでは男女共同参画については、女性の視点から扱われることがほとんどでしたが、今回は、既存の社会をリードしてきた男性の特性に視点を置き「男性性を問う」というテーマにいたしました。本学におけるこれまでの取組状況を振り返りつつ、現代社会において男性はどのような男性性に絡めとられているのか、既存の男性社会に変革の可能性はあるのかを本日お集まりの皆様とともに考え、議論したいと考えております。

本日は、来賓として内閣府男女共同参画局推進課課長補佐 宗近美佐子様にお越しいただきご挨拶を頂戴することにしております。

また、沢柳賞を発展させ、今年で第3回を迎える澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(通称:澤柳記念賞)の授賞式、及びその受賞者である名古屋大学男女共同参画室室長 東村博子先生(副理事・生命農学研究科教授)による受賞講演もお願いしております。

さらに、特別講演として東京大学東洋文化研究所教授 安富歩先生に「男女」の区分けという見えない金網についてというタイトルでご講演いただきます。そしてパネルディスカッションは「男性標準」社会を問い直すというテーマで関西大学文学部教授 多賀太先生、武蔵大学社会学部社会学科助教 田中俊之先生にお話しいただきます。

このように多く皆様にお忙しい中お集まりいただき、本日のシンポジウムが開催できることを大変光栄に思います。

最後に、本シンポジウムが、本日おいでの皆様それぞれの立場で、男女共同参画の推進についてお考えいただく契機になりますとともに、この議論が、本学の研究・教育の発展、ひいてはこれからの男女共同参画社会の推進に大きく寄与していくことを祈念し、私の挨拶といたします。



東北大学 総長  
里見 進

# 第13回東北大学男女共同参画シンポジウムプログラム

平成29年1月29日(日) 13:00~17:00

総合司会 東北大学男女共同参画委員会 広報・シンポジウムWG

理学研究科 教授 寺田 眞浩

---

13:00 開会挨拶 東北大学 総長 里見 進

13:05 来賓挨拶 内閣府男女共同参画局推進課課長補佐 宗近 美佐子氏

## 第I部

13:10 第3回 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(澤柳記念賞)授賞式及び講演会  
A賞(本賞)

名古屋大学男女共同参画室 准教授 三枝 麻由美氏

13:40 東北大学における男女共同参画の取り組みについて

東北大学男女共同参画推進センター副センター長、医工学研究科/工学研究科 教授 田中 眞美  
東北大学総長特別補佐(男女共同参画担当)、男女共同参画推進センター副センター長、  
医学系研究科 教授 大隅 典子

----- 休憩(14:10~14:30) -----

## 第II部

14:30 講演1 父親への期待の変化とその社会的背景

武蔵大学社会学部社会学科 助教 田中 俊之氏

15:00 講演2 男性にとっての男女共同参画の意義と課題

関西大学文学部 教授 多賀 太氏

----- 休憩(15:30~15:50) -----

15:50 講演3 Why Diversity -個人と組織を強くするための戦略

日本アイ・ビー・エム株式会社 人事ダイバーシティ企画担当部長 梅田 恵氏

16:20 パネルディスカッション 「男性標準」社会を問い直す

コーディネーター:東北大学男女共同参画委員会 委員、医学系研究科 教授 朝倉 京子

16:50 講評・閉会挨拶 東北大学男女共同参画委員会 委員長 植木 俊哉

17:00 閉会

# 来賓

内閣府男女共同参画局推進課課長補佐  
内閣府仕事と生活の調和推進室

宗近 美佐子氏

## 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞 歴代受賞者

第1回 (平成26年度)	A賞	日本の男女共同参画社会の推進を牽引する先導的活動について 明治大学法科大学院 教授 辻村みよ子氏
	B賞	サイエンス・エンジェル修了生を中心とした有志団体による男女共同参画への取組み SA輝友会
第2回 (平成27年度)	A賞	日本の理工系女性研究者支援を牽引した先導的活動 日本大学薬学部・薬学研究所 上席研究員 大坪 久子氏
	B賞	“新大 Wits”による出前授業活動から生まれた男女共同参画多世代キャリア教育 新大 Wits

### A賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞

東北大学内外に関わらず男女共同参画に関する研究や活動について、特段に優れた成果を挙げている個人又はグループ

### B賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画奨励賞

東北大学内外に関わらず男女共同参画に関する研究や活動について、顕著な成果を挙げている、あるいは顕著な活躍を行っており、今後一層の成果や活躍が期待される若手(42歳以下)の個人又は若手で構成されるグループ



第2回澤柳記念賞授賞式  
新大 Wits



第2回澤柳記念賞受賞講演  
日本大学薬学部・薬学研究所 上席研究員 大坪久子氏

# 第3回「澤柳記念賞」



## 第3回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞審査結果及び講評

東北大学男女共同参画委員会 委員長 植木 俊哉

本学では、平成15年度より10年間にわたり、東北大学における男女共同参画を推進するため、「東北大学男女共同参画奨励賞（通称：沢柳賞）」として、教職員及び学生の皆さんの男女共同参画に関連する研究や活動を奨励してきました。

平成26年、さらなる男女共同参画社会を目指し、沢柳賞を改め、「澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞（通称：澤柳記念賞）」を創設しました。この賞は、アカデミアにおける男女共同参画の先駆として、各分野で活躍し多大な貢献をなした方々を選考し顕彰する目的で設置しました。これまでの沢柳賞と異なり、学内だけでなく学外からも広く公募することで、より多くの方へ男女共同参画推進の理念を広げたいと考えています。名称は、東北大学の理念である「門戸開放」の方針を打ち出し、全国に先駆けて女子学生に帝国大学の門戸を開く素地を作った初代総長澤柳政太郎の功績にちなんでいます。澤柳記念賞は、本賞（A賞）のほか、42歳以下の若手を奨励する目的で設置された奨励賞（B賞）の2部門からなります。審査においては男女共同参画に関連する研究や活動の奨励、男女共同参画社会実現へ向けての積極的な提言や企画を重視しています。厳正な審査により、以下のように受賞者が決まりましたので、審査の講評とあわせてご報告いたします。

### 第3回（平成28年度）澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞

#### A賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞 受賞課題

**課題名** 大学における男女共同参画推進事業のモデル化による国際的拠点化  
**受賞者** 名古屋大学男女共同参画室  
**講評** 同大学は国連ウィメンにより女性活躍を推進する「世界のトップ10大学」として国内で唯一選出されるなど、「男女共同参画を推進する大学」として高く認知されている。また、同大学がこれまで行ってきたポジティブアクション、産学官連携による男女共同参画の推進、女性リーダー育成プログラムなどの先覚的な取組は、日本に留まらず国際的に評価されている。これらの業績は特に顕著なものであり、澤柳記念賞としてここに顕彰する。

#### B賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画奨励賞

該当なし

## 第13回東北大学男女共同参画シンポジウム

### 第3回「澤柳記念賞」講演



#### 日本の理工系女性研究者支援を牽引した先導的活動

国立大学法人名古屋大学男女共同参画室

准教授 **三枝 麻由美氏**

#### 【略 歴】

ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）で国際関係学の学士を取得後、千葉大学で社会学の修士号、イリノイ大学シカゴ校で社会学の博士号を取得。UBCおよびルンド大学でのポストドクトラル・フェロー、名古屋大学男女共同参画室助教を経て現職に至る。これまでに4カ国（カナダ、アメリカ、スウェーデン、日本）で教鞭をとる。専門分野は国際社会学（グローバリゼーション）、男女共同参画、制度分析。現在の研究プロジェクトとして、「男女共同参画社会への社会変容に関する国際比較」と題し、日本、スウェーデン、フランスでのジェンダー平等に関する比較調査を行っている。

# 東北大学における男女共同参画の取り組みについて



## 東北大学における男女共同参画の取り組みについて

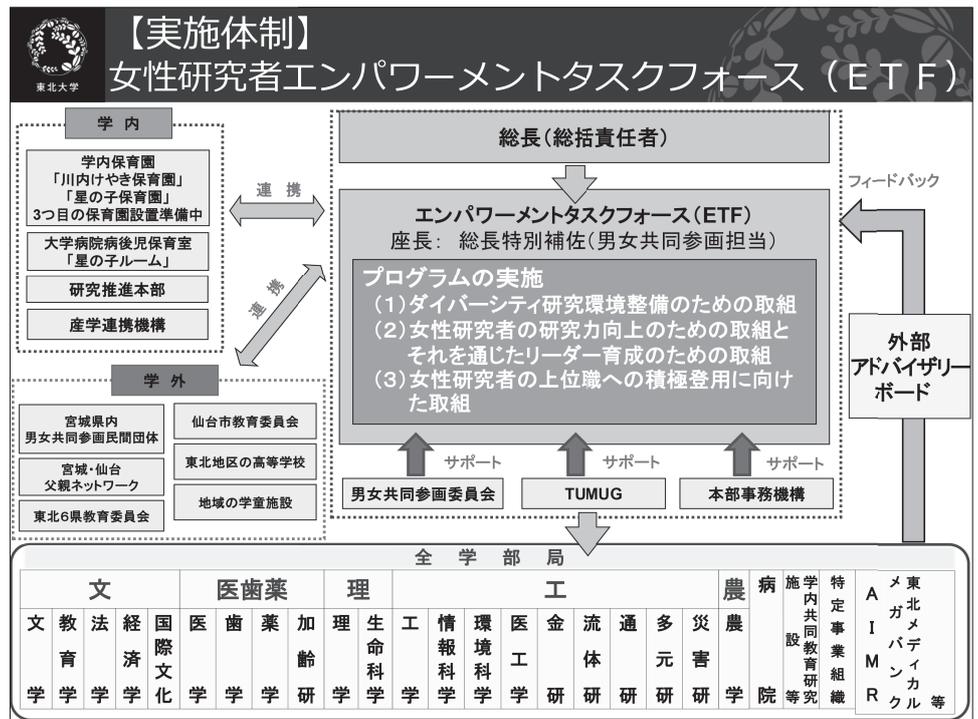
東北大学男女共同参画委員会副委員長 男女共同参画推進センター副センター長  
医工学研究科/工学研究科 教授 田中 真美

東北大学では、男女共同参画の実現に向けた委員会活動とともに、女性研究者がキャリアパスの障害を乗り越えるための支援として、平成18-20年度に「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」（文部科学省科学技術振興調整費：女性研究者支援モデル育成）、平成21-25年度に「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013」（文部科学省科学技術振興調整費：女性研究者養成システム改革加速事業、現科学技術人材育成費補助金）を実施してきた。平成26年度からはこの成果を踏まえ、男女共同参画推進センターを中心に、大学独自予算でこれらの事業を継続している。

さらに今年度は、平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に本学の「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」が採択された。本事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、各機関・地域の特色を踏まえた、女性研究者の活躍推進に向けた機関としての目標・行動計画を設定・公表することを要件とし、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組及び女性研究者の積極採用や上位職への積極登用に向けた取組を支援するものである。

これらの取組を精力的に進め、今後一層本学における男女共同参画の推進を図る予定である。

図 杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業実施体制



## 第13回東北大学男女共同参画シンポジウム 講演3



### Why Diversity -個人と組織を強くするための戦略

日本アイ・ビー・エム株式会社

人事ダイバーシティ企画担当 部長 梅田 恵氏

#### 【講演要旨】

1911年の創業当時から「機会均等」を人事の基本方針として、従業員の多様性を尊重してきたIBM。、IBMが提供する社会的、創造的機会における、人種、肌の色、宗教、性別、性的傾向、国籍、涉外、年齢による差別を禁じてきました。1990年代前半にIBMは経営危機に直面し、ダイバーシティを経営戦略の柱の1つとして推進し、ビジネス、企業文化、人材育成について大きな変革をします。IBMのダイバーシティに対する取組みの歴史と、女性、障がい者、LGBT、働き方改革についての具体的な施策、取組み、社会への働きかけ事例についてご紹介しながら、なぜIBMがダイバーシティの推進に取り組み続けるのか、IBMにとってダイバーシティとは何なのかをお話します。

#### 【略 歴】

1987年日本IBM入社。主として広報部門でキャリアを積み、2004年研究開発部門担当広報課長、2007年人事広報担当部長 2008年 ダイバーシティ担当兼任、現在に至る。

女性、障がい者、性的少数派、外国籍、世代、ワークライフに注目したプログラムの企画・開発を担当。2011年に本社（東京都中央区）、2015年に幕張事業所（千葉県）に企業内保育施設をそれぞれ開設。

# パネルディスカッション



## 略歴

- 平成8年3月 九州大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学
- 平成8年4月 九州大学 教育学部 助手
- 平成9年4月 日本学術振興会特別研究員 (PD)
- 平成10年4月 久留米大学 文学部 専任講師
- 平成13年4月 同 助教授
- 平成19年4月 同 准教授
- 平成20年4月 関西大学 文学部 准教授
- 平成21年4月 同 教授 教授

## 「男性標準」社会を問い直す

パネリスト：関西大学文学部 教授 多賀 太氏

### 講演要旨

「男女共同参画」は、ともすれば「女性の社会参画」や「女性の地位向上」と同義と見なされ、男性にとっては他人事のように思われがちであるが、決してそうではない。

一方で、女性が職業領域で活躍するためには、従来の「男性的な」働き方を標準とする社会の変革が必要であり、それゆえ男性自身の変化が要請される。従来の日本の職場では、暗に家庭責任を免除された男性労働者が「標準」と見なされてきた。私生活を犠牲にしても長時間労働や不規則な勤務をこなして成果を上げた者がよりよい条件の地位を与えられ、そうした要請に応えられない者は職場で周辺化・排除されてきた。いくら男女間での職務上の機会均等が保証されても、子育てや介護などの家庭責任を負う者（これまでそのほとんどは女性であった）は圧倒的に不利となる。研究者の世界もこの例に漏れない。

他方で、男性も従来の固定的な性別役割分業のもとで疲弊しつつある。男性への稼ぎ手責任期待は根強いが、雇用システムと賃金体系の変化は、そうした役割を果たせる男性の割合を縮小させている。また、稼ぎ手責任を果たしている男性の多くも、多大な労働負担と引き換えに、子育てや地域に関わる人生の貴重な機会を奪われたり、心身の健康を害したりしている。女性の社会参画と経済的自立を促すことは、男性の稼ぎ手責任を軽減させ、男性のワークライフバランスと生活の質の向上に資する。

したがって、大学および学術界には、家庭責任を負った教職員・研究者が性別にかかわらず能力を向上・発揮できる労働・研究環境の整備が求められている。このことは、将来の男女共同参画社会を担う学生たちの教育・訓練機関としても極めて重要な課題である。

### 主な活動・著書

専門は教育社会学、ジェンダー論。1990年代半ばから、関西や九州で男性が抱える問題の解決や男性の生き方の問い直しに取り組む市民活動に参加。これまでに、地方自治体の男女共同参画審議会委員を数多く務め、各地で男女共同参画の啓発講演を行うほか、助言者として学校でのジェンダー平等教育の実践にも参加。近年の大学での講演に「錯綜する〈男らしさ〉のポリティクス」（一橋大学 2016年6月）、「男性にとっての男女共同参画の意義と課題」（山口大学 2015年11月）。現在、大阪市男女共同参画審議会会長、女性に対する暴力防止の啓発に男性主体で取り組む「一般社団法人ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン」共同代表。著作に『男子問題の時代？』（学文社 2016年）、『男性の非暴力宣言』（共著、岩波書店 2015年）、『揺らぐサラリーマン生活』（編著、ミネルヴァ書房 2011年）、『男らしさの社会学』（世界思想社 2006年）など。

# パネルディスカッション

## 「男性標準」社会を問い直す

パネリスト：武蔵大学社会学部社会学科 助教 田中 俊之氏

### 講演要旨

イクメンが流行語になり、家庭内において、父親は経済的な大黒柱としての役割を果たすだけでは十分ではなく、家事・育児参加をするのが「当たり前」とする風潮がある。現実としては、6歳未満の子どもを持つ男性の家事・育児の合計は、一日あたり平均1時間7分にとどまっている。スウェーデンの父親は、家事・育児に3時間21分を割いているし、アメリカやイギリスでも3時間弱である。

このデータだけで、「日本の男性は欧米を見習ってもっと家事・育児に従事すべきだ」という結論に至るのは早計である。週の労働時間が60時間を超えている男性は、長期的な傾向としては減少しているものの、30代・40代でそれぞれ17%、16.9%にも達している。他国とは比較にならない男性の働きすぎを放置したまま、父親に家事・育児への参加を促すのは明らかに無理がある。

同様のことは、共働きはすでに「普通」という主張にも当てはまる。確かに、建築や製造といったかつての主力産業が衰退し、フルタイムで働く男性全般の賃金が減少傾向にある現代の日本では、子育てをしながら安心して共働きできる社会を目指すべきである。しかし、「女性の活躍」が社会的な課題として強調されているにも関わらず、6歳未満の子どもを持つ母親のうち、正社員として働いている女性は2割に満たず、非正社員が2割程度、残りの5割以上は専業主婦である。

現代の日本社会においては、父親に対する期待は変化しているが、性別分業を前提とした社会構造は維持されているという矛盾がある。こうした現実を踏まえて、今後の父親のあり方について検討する。

### 主な活動・著書

- 『男性学の新展開』青弓社
- 『男がつらいよ——絶望の時代の希望の男性学』KADOKAWA
- 『〈40男〉はなぜ嫌われるか』イーストプレス
- 『男が働かない、いいじゃないか!』講談社
- 『不自由な男たち—その生きづらさは、どこから来るのか』祥伝社

渋谷区男女平等・多様性社会推進会委員

2016年

男女共同参画に関する市民講座実績

1月 東京都国分寺市、2月東京都三鷹市、神奈川県南足柄市、東京都稲城市、3月富山県富山市、北海道札幌市、6月埼玉県川口市、東京都立川市、兵庫県西宮市、7月東京都西東京市、東京都葛飾区、8月東京都北区、9月京都府京都市、10月岡山県岡山市、神奈川県海老名市、東京都武蔵野市、12月福岡県福岡市



### 略歴

1999年3月31日 武蔵大学人文学部社会学科卒業

2001年3月31日 武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻博士前期課程修了

2004年3月31日 武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得退学

2005年4月1日 学習院大学「身体表象文化学プロジェクト」研究員

2008年4月25日 博士(社会学)取得  
武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻甲第7号

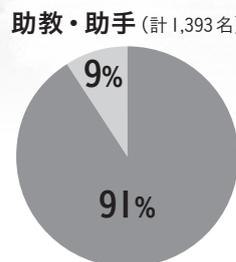
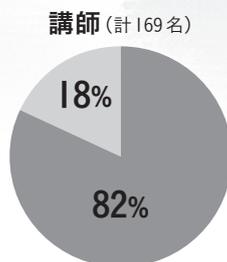
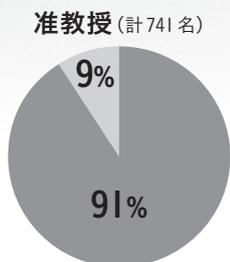
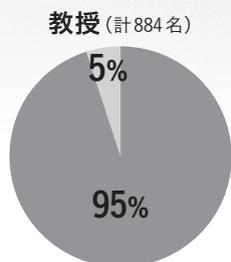
2013年4月1日 武蔵大学社会学部助教

# 東北大学における男女構成比と推移

平成28年5月1日現在

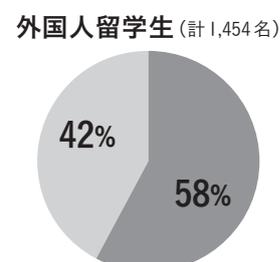
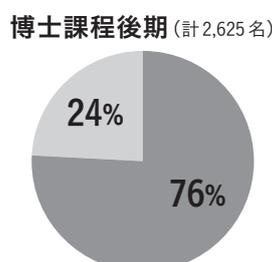
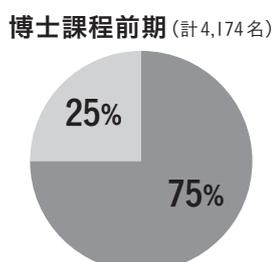
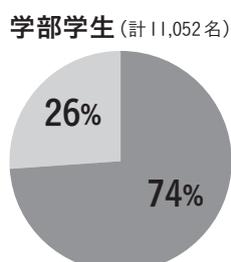
## 教員男女構成比

■男性 ■女性



## 学生男女構成比

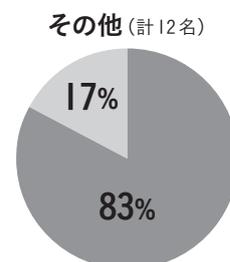
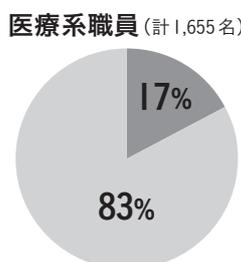
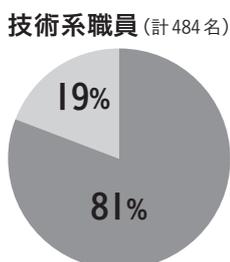
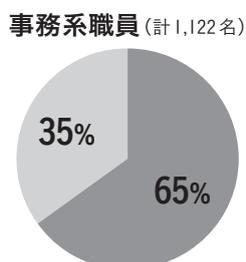
■男性 ■女性



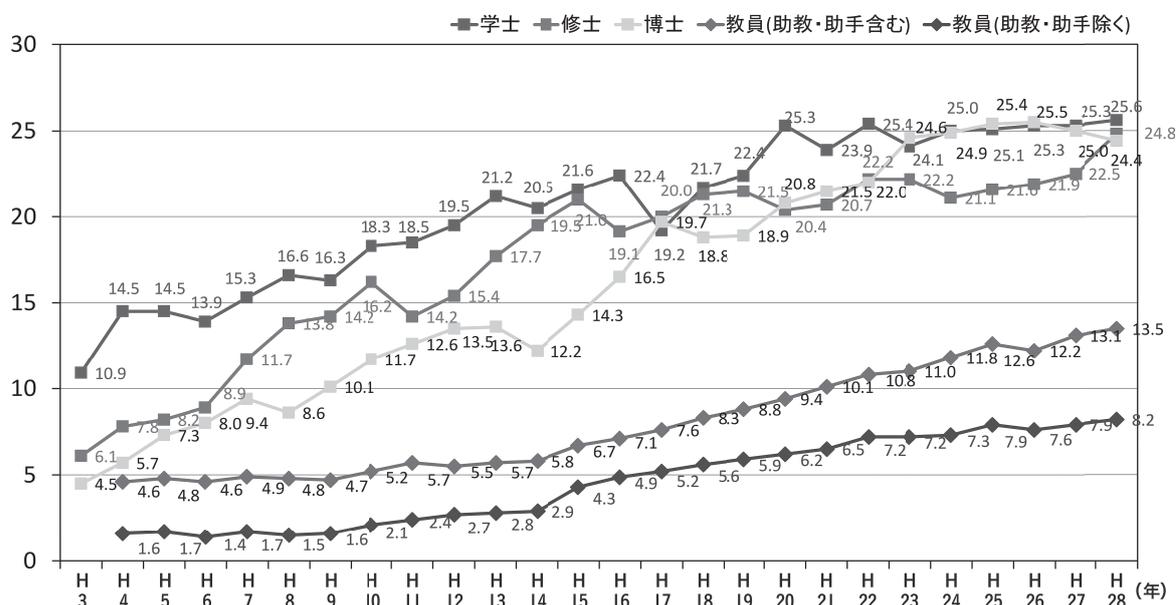
※外国人留学生の数は学部学生・博士課程の内数

## 職員男女構成比

■男性 ■女性



## 男女構成比推移



# MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing, filling most of the page below the 'MEMO' header.



お問い合わせ先

東北大学総務企画部総務課

Tel. 022-217-4811

Fax. 022-217-5906

Mail.danjyo@grp.tohoku.ac.jp

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/>

東北大学は男女共同参画を推進しています

東北大学男女共同参画推進センター

Tel. 022-217-6092

Mail.tumug@morihome.tohoku.ac.jp/

<http://www.morihome.tohoku.ac.jp/>